

例会日：毎週木曜日 12 時 30 分
例会場：岐阜県郡上市八幡町小野 67(八幡建設 2F)
TEL (0575) 67-0314 FAX (0575) 67-0005
E-mail:rc-8man@abeam.ocn.ne.jp
URL:http://gujohachiman-rc.com/

会 長 : 水上成樹
副 会 長 : 平岩憲政
幹 事 : 野田三津雄
公共イメージ : 西川 昇
会報担当者 : 大川達也

2022 年度国際ロータリー会長：ジェニファー・ジョーンズ(ウイザー・ローズランド・ロータリークラブ・カナダ)
2022 年度国際ロータリーテーマ：IMAZINE ROTARY(想像してください。私たちがベストを尽くせる世界を)

<本日のプログラム>
第 2809 回 令和 5 年 3 月 2 日 第 1 木曜日
会員卓話 平岩憲政会員
大川達也会員

<次回の予定>
第 2809 回 令和 5 年 3 月 16 日 第 3 木曜日
郡上青年会議所との交流会
吉田屋にて

<前回の記録>
第 2807 回 令和 5 年 2 月 16 日 木曜日
会員卓話 西村 肇会員
田中義久会員

・西村会員、田中会員 卓話宜しくお祈いします。
平岩憲政・岩尾 誠・可児一彦・河合 修
國田大雄・松森 薫・三原慎也・森下 光
村井裕孝・長尾信幸・永瀬和郎・西川 昇
信田清久・小笠原正道・大川達也・酒井智義
坂本 仁・霜野賢一・竹内巧治・和田英人
渡邊 剛・山下友幸

司 会 進 行	國田大雄 SAA
点 鐘	水上成樹会長
ソ ン グ	我等の生業
出 席 表 彰	長尾信幸出席担当責任者

幹 事 報 告 野田三津雄幹事
・関 RC より例会変更・休会のお知らせ

2022 年度上期出席表彰

1 年 永瀬和郎会員	8 年 廣瀬泰輔会員
10 年 岩出明喜会員	11 年 西村 肇会員
12 年 平岩憲政会員	18 年 野田三津雄会員
19 年 三原慎也会員	25 年 西川 昇会員
26 年 河合 修会員・村土時男会員	
28 年 森下 光会員	32 年 松森 薫会員

委員会報告
岩尾 誠情報担当責任者
・本日の IDM のお知らせ
山下友幸親睦委員長
・新会員歓迎会のお知らせ

出席報告 長尾信幸出席担当責任者

会長の時間 水上成樹会長

会員数	出席	補正	出席合計	出席率
34 名	28 名	2 名	30 名	88.2%



皆さん、こんにちは。来週の例会はお休みですが、22 日に信田さんの歓迎会がありますので宜しくお願いします。先週の例会でもお知らせしましたが、3 月 2 日は伊勢崎中央 RC の方がお見えになりますので宜しくお願いします。その前日に、打ち合わせ会ということで、理事の方向名かでお会いしてお話をしたいと思っていますので宜しくお願いします。

ニコBOX 可児一彦ニコBOX 担当責任者
・西村さん、田中さん 卓話楽しみにしています。
水上成樹
・西村会員、田中会員 本日は宜しくお願いします。
野田三津雄
・本日卓話です。宜しくお願いします。西村 肇
・郷土文化誌郡上Ⅱ第六冊をご紹介させていただきます。
宜しくお願いします。 田中義久
・出席表彰ありがとうございました。
永瀬和郎・廣瀬泰輔・西村 肇・平岩憲政
野田三津雄・三原慎也・西川 昇・河合 修
森下 光・松森 薫

話は変わりますが、今トルコ、シリアで大地震が起きて大変なことになっています。今日、いくつかの記事をダウンロードしてきているのですが、映像で見るとかなりの規模で建物が倒壊していて、震度が 7.8 と言われています。震度 7.8 と言いますと、東日本大震災の 때가 9 だったのでそれより

も小さいのですが、阪神淡路の時は7.5だったそうです。7.8でこれだけの倒壊をしたということは、耐震がだいぶ弱かったのかなと思いますが、実際は横揺れが4mほどあったそうです。4mも地面が動いたために倒壊が酷くなって、250kmに及んでその活断層があるということが書いてありました。未だに救出されていない方もみえますが、本当に大変な状況のようです。テレビでもかなりやっておりますが、ネットの方で検索すると、被災地で親を亡くした子供たちがウロウロしていたり、寝る場所もなくて困って野宿している状態だそうです。そういう場所へ支援に行くのはなかなか難しいと思いますが、日本からも既に現地に行っている方もみえますので、早く落ち着くといいなと思います。そのこともあって、先日、郡上長良川RCの会長の小島さんから、支援についてのお尋ねがありました。地区の方からも支援について連絡があると思いますので、その時はご協力頂きますようお願い致します。

今後の予定ですが、4月末に旅行の計画を立てています。5月には奉仕作業を考えていますので、何かいい案があれば教えて下さい。

会員卓話 西村 肇会員



皆さん、こんにちは。昨年ですが、財団のセミナーがZOOMでありました。今日は、そのセミナーで勉強したことをお話します。

セミナーでメインとなって話をされたのが、補助金と、一番大きいのはポリオ撲滅についてでした。去年の資料によると、今、全世界の中でポリオの発症者は13人という話でしたが、その後も発症者が確認されたということで、ポリオの撲滅にはかなり時間がかかるのかなということを感じます。今の高橋ガバナーも、ポリオのために募金活動と呼び掛けてみえます。去年の12月にあった高橋ガバナーとの懇親会の時にも、ポリオ撲滅のためにはどうするかというお話がありました。募金も大事だけれども、ロータリーカードを作って欲しいということ言われました。カードを使って頂くと、利用額の何%か財団に入ってポリオ撲滅の活動資金になります。クラブでカードを作って、人頭分担金等の支払い等に使って下さいとのことでした。

それから、以前会長が、ロータリー文庫の予算を拡充したらどうかということで、地区補助金の活用を提案されたので、それもいいなと思っています。

4月頃に長期計画を発表しなければいけませんので、今日の卓話はこの辺で終わりにさせていただきます。ありがとうございました。

会員卓話 田中義久会員



皆さん、こんにちは。今日は、「郷土文化誌郡上Ⅱ第6冊」ができましたので、そのお話をさせていただきます。

古い話になりますが、私は八幡町役場に勤務させて頂いておりました。それとは直接関係がないのですが、八幡の市街地を着物を着て歩いている「おもだか家」の水野隆さん、それから、たにざわ呉服店の谷沢幸男さん、高校で先生をされていた高田英太郎さん、この3人は仲が良かったのですが、私もその中に入れて頂いて、色々なことを見聞しました。ある時、地域づくりの話をして欲しいということで、兵庫県の佐用町に招かれました。毎日新聞主催で、前の日に行ってきたつのに泊まりました。そこは、哲学者の三木清とか、童謡の赤とんぼの作詞をした三木露風の出身地です。サイクリングターミナルのような所に泊まったのですが、一日に何度も赤とんぼの曲が流れていました。その赤とんぼの曲が耳に残ったまま八幡に帰り、ちょっと飲みに出掛けたところ、水野さんに会いました。それで、赤とんぼの話を少ししたところ、水野さんが三木露風の話をどんどんしてこられ、赤とんぼの歌詞の中に文法的な間違いがいくつかあるという話をされました。私が驚いたのは、たまたま出会う私が行った所の話をしただけなのに、水野さんからはそういった話がたくさん出てきたところです。「水野隆 詩のサロン」というところに、私も出入りさせて頂いておりましたし、谷沢さんには、岐阜県芸術文化会員の集まりに、いつも運転手として連れてってもらいました。そうすると、非常に多くの岐阜県で活躍してみえる、文化の様々なリーダーの方とお付き合いがありました。それと、谷沢さんが中心で郷土文化誌の前の本をやってみえましたが、皆さんもご存知のように、安養寺での日本的な方々による寄席、私は特に小三治が好きでしたが、扇橋や永六輔とか、そういう方が郡上まで来られて、そして近くで実演して下さるいろんな場面がありました。津軽三味線の高橋竹山さんが来られた時もありました。そういうことを私たちも見聞きしてお手伝いしていく中で、その核になっているのが、当時、郷土文化誌郡上の集まりでした。これが1999年に廃刊になりました。10冊作って辞められました。それで、私としてはご縁があったので、何とかして復刊したいなということで、2011年、10年ほど経ってから呼びかけをして編集部を作り、本作りを始めました。毎年1冊ということで取り組んでいますので、これまでも2回ほどご紹介したことがあると思います。

ちょっと振り返ってみますと、この表紙は、白山の開山1300年、養老年元から1300年目の2017年に色々な記念行事がありました。それをテー

マにしています。全部をそれを通してはありますが、その時代としてそういうものを取り上げてテーマにしました。表紙は、ずっと水野政雄先生に描いてもらっています。



その次の年の表紙は、明治150年ということで、幕末の城下町です。非常に豊かな八幡の城下町が描かれています。150年経って、今と同じ町が実はあるということとか、明治維新とは何だったのかとか、そういうことをテーマとして色々と研究した覚えがあります。この本の中に、青山さんの150年というのがありますが、青山家は子爵という立場で、起業家でもありました。でも、戦争に負けてからいろんな財産まで無くなって、そして今、ご自分でカメラスタジオのご商売をしてみえるという、変遷していく150年をこの本の中に残して頂きました。

そして、第3冊は令和の始まり、令和元年の年です。新しい時代の幕開けということですが、しかし、そういう時代が来ても、相変わらず郡上八幡は水の町であって、子供たちが川で遊び、魚を釣ることができて、そして緑に抱かれた郡上であって欲しいというテーマで本を作りました。

それから、第4冊になるとコロナの始まりということで、コロナについて色々とその時の状況を残すということで取り組みました。

第5冊については、郡上東氏です。「古今伝授の里やまと」というのがありますが、古今伝授550年の振り返りで、郡上に非常に特徴のある、今日の和歌文学の源流みたいなものを探るという取り組みをしました。

そして今回、6年目にして第6冊ということになりました。これを見て頂きますと、まさにコロナの時代で、3年ぶりに郡上おどりができたということで、郡上おどりの文字はマスクに書いてあります。時代を切り取って残すという意味で、コロナの時代、しかし3年ぶりに郡上おどりができたねということです。そして、郡上おどり保存会が100年という節目を迎えたいということで、郡上おどりに関して様々な分野からの考察とか、少し保存と継承が難しくなっていますので、どうやって保存と継承にこれから取り組んでいくのかという提言とか、そういうものもこの中に盛り込んであります。お配りしたチラシの目次を見て頂くと、色々な場面がお分かりになると思います。テーマは、木下節夫さんに書いて頂いた巻頭の言葉「コロナからの再生」です。そして第1部では、郡上おどり保存会、白鳥おどり、或いは拝殿おどり、そういうものを「ふるさと特集」として、それぞれの立場で思いを書いて頂きました。それから、魚釣りのお話とか、ちょうど今、



NHKの大河ドラマで家康をやっていますが、その江戸の初期に青山家は何をしていたのか、どうする家康にはそのことは出てこないのですが、青山家は相当な地位にあったわけですから、どういうことをしていたのかを、ここで少し解説しています。実は、越前に青山の領が4万8千石あったといわれていますが、半分以上が今の福井県です。ですから、青山家の点在する藩領の位置を、ある程度解説しておこうということで、それも書いてあります。「ふるさと便り」では酒井繁治さんという東京で会社を経営してみえる方が、非常に郡上八幡を思うということを書かれています。郡上鮎が今、豊洲で非常に高値で売っていますが、その手配をしてくれたのも酒井さんです。第2部は「文化活動と新たなうねり」で、郡上の新しい取り組みについて書かれています。近藤正臣さんが中心となって、ノルディックウォーキングの話を纏めてあります。これで、健康づくり郡上をやらうという一つの話題提供をしております。「郡上に吹く新しい風」は、若い人たちが郡上を、八幡を、これからどうしていくか、自分たちの取り組みを紹介して、応援を呼び掛けるということで7人の方に書いて頂きました。いろんな熱いオピニオンがここに盛り込まれています。第3部の「文芸」は、毎回定番の短歌、俳句、連歌、連句です。今回、まんが郡上むかし話ということで、常緑が短歌でお城を取り返すという物語を漫画にしました。第4部の「時事・連載」ですが、源義経の逃避行が、白鳥を辿って行ったという説があり、それについて書いてあります。他には、郡上の地名シリーズ、俳諧シリーズも定番です。それから、昨年4月にお亡くなりになった下牧穂積さんの世界各地の写真を、今回初めてカラーで載せさせて頂きました。あと面白いものでは、自衛隊が高鷲を練習場に使いたいということで、非常に一生懸命、国が来ていたのですが、それを跳ねのて受け入れなかった歴史をまとめた本があり、それを紹介させて頂きました。

色々なものがありますが、非常に盛りだくさんな本になりました。もし興味がおありでしたら、お買い求め頂き、読んでみて下さい。

自分の本の紹介をさせて頂きましたが、どうもありがとうございました。